大学生のフリーター観とアイデンティティ・ステイタス

○深瀬裕子・荒井佐和子（非会員）

（広島大学大学院教育学研究科）

キーワード：就業意識，青年期，自我同一性

Relationship between the views of “Freeter” and identity status among college students

Yuko FUKASE, Sawako ARAI #

(Graduate School of Education, Hiroshima Univ.)

Key Words: work consciousness, adolescence, identity

目 的

青年期のアイデンティティ形成において，社会的役割の獲得は中心的課題である。しかし，近年では社会状況の変化から非正規雇用の広がりなどが見られ，青年の就業に関する価値観は多様にならざるを得なくなっている。そこで本研究では，新しい就業意識としてフリーターという生き方に着目する。アイデンティティ・ステイタスとフリーターという生き方への意識との関連を調査することで，大学生の就業意識に関するメカニズムを検討する。

方 法

調査協力者 大学生 104 名（男性 34 名，女性 70 名）。

調査内容 **就業意識** フリーターという生き方に対する意識を測定するため，フリーターに対する肯定的態度尺度（安達，2007）を用いた。24 項目 5 件法であり，社会におけるフリーターの役割を認める“貢献承認”，目標へ向かうための一時的な生き方として認める“プロセスとしての受容”，フリーターという新しい生き方を積極的に価値づける“積極的受容”の 3 下位尺度からなる。**アイデンティティ・ステイタス** 同一性地位判定尺度（加藤，1983）を用いた。全 12 項目に対し 6 件法で回答し，その得点によって次の 6 つのアイデンティティ・ステイタスに分類するものである。(1) Identity Achievement (アイデンティティ達成型)：高い水準の危機を経験し，高い水準の傾倒を行っている。(2) AF-intermediate (アイデンティティ達成 - 早期完了中間型)：中程度の水準の危機を経験し，高い水準の傾倒を行っている。(3) Foreclosure (早期完了型)：低い水準の危機しか経験せず高い水準の傾倒を行っている。(4) Moratorium (モラトリアム型)：高い水準の傾倒は行っていないが将来の傾倒を強く求めている。(5) DM-intermediate (アイデンティティ拡散 - モラトリアム中間型)：中程度の水準の傾倒をしており将来の傾倒の希求がモラトリアム型ほどには高くない。(6) Identity Diffusion (アイデンティティ拡散型)：低い水準の傾倒しか行っておらず将来の傾倒の希求も弱い。

結 果

アイデンティティ・ステイタスを独立変数，フリーターに対する肯定的態度尺度とその下位尺度得点を従属変数とする一要因分散分析を行った (Table 1)。その結果，アイデンティティ・ステイタスによる違いが“プロセスとしての受容”で認められた ($F(5, 98) = 2.41, P < .05$)。Tukey 法による多重比較を行ったところ，Identity Achievement が AF-intermediate よりも高かった。その他の得点では有意な差は認められなかった。

考 察

「目標に向かって試行錯誤すること」への共感

危機を体験した Identity Achievement は，中程度の危機しか体験していない AF-intermediate よりも，“プロセスとしての受容”が有意に高かった。Identity Achievement は，人生において迷い立ち止まることが，長期的に見れば意義のあることだと体験を伴って理解している類型である。したがって，フリーターの「目標に辿り着くための試行錯誤の時期」という部分に積極的な理解，あるいは共感を示したと考えられる。

フリーターの背景要因の統制

実体験に基づいてフリーターの側面に共感を示すのであれば，低い水準の傾倒しか経験していない類型は，傾倒をしている類型よりも“積極的受容”に高い得点を示すと予測できる。しかし，この点については有意な差は認められなかった。これは，“プロセスとしての受容”では「夢に向かうための」フリーター像を抱きやすいのに対し，“積極的受容”では，フリーターになった背景要因が一貫しておらず，調査協力者によってフリーター像が異なっていたためと推察される。

引用文献

- 安達達子 (2007). 若者層のフリーターに対する肯定的態度の構造と規定要因 実験社会心理学研究, **47**, 39-50.
加藤 厚 (1983). 大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究, **31**, 20-30.

Table 1
アイデンティティ・ステイタスによるフリーターに対する肯定的態度の分散分析結果

	Identity Achievement	AF-intermediate	Foreclosure	Moratorium	DM-intermediate	Identity Diffusion	全体	F 値	多重比較 (Tukey)
フリーターに対する肯定的態度得点	3.37 (.41)	3.19 (.51)	2.72 (.23)	3.14 (.46)	3.08 (.48)	2.99 (.45)	3.08 (.47)	1.15	
貢献承認	3.75 (.83)	3.34 (.51)	3.19 (.13)	3.53 (.81)	3.29 (.60)	3.38 (.51)	3.36 (.61)	0.89	
プロセスとしての受容	4.10 (.66)	3.70 (.71)	2.78 (.31)	3.57 (.45)	3.51 (.68)	3.33 (.63)	3.51 (.67)	2.41*	Identity Achievement > AF-intermediate
積極的受容	2.25 (.54)	2.53 (.74)	2.19 (.51)	2.32 (.66)	2.43 (.87)	2.26 (.61)	2.39 (.78)	0.27	

注) 得点は平均値，括弧内は標準偏差である。df=5, 98, * $p < .05$